



ニュースクリッピング

国保旭中央病院：障害者対象に人間ドック - - 県内初の実施 / 千葉

旭市の国保旭中央病院(村上信乃院長)は今月、知的障害や自閉症の人を対象とした人間ドックを実施している。障害者たちが初めての環境にもパニックを起こさず、安心して受診できるように、予習キットを用意するなどの配慮がされている。障害者に特化してプログラムされた人間ドックは県内で初めてで、県のモデル事業として行っている。18日に最終5回目が実施された。

プログラムは、同院脳神経外科の大屋滋医師(48)が、自閉症の長男(14)と長女(10)の父親としての経験を生かし、発案した。病院に入る様子から受診終了までの流れを映像化したビデオや、心電図撮影時の器具や採血用ゴムを事前に渡し、自宅で予行練習ができるようにした。

この日は市川市の自閉症の男性(31)と知的障害のある女性(36)が受診。看護師らは事前に、身長測定やレントゲンを撮る様子の写真と言葉が書かれたカードを示しながら説明した。また、各受診終了ごとに、手作りの表にキャラクターシールを張って「よく頑張ったね」と褒めていた。

男性の母親(56)は「自分で痛みを訴えられないので、病気になっても分からなくて心配。きちんと全身を診てもらえれば安心です」と話した。

同病院で受診した計10人の実践例は、他の医療機関の参考となるように県のホームページで紹介される。

【中川紗矢子】

[毎日新聞 2005年3月20日]

INDEX	BACK	NEXT	
HOME	イベント	アクション	夢のけいたい
クリッピング	レポート	インタビュー	フリートーク
シンポジウム	メーリングリスト	リンク	マンズリーサロン
キーワード	ナレーション	ニュース速報	今日のニュース